

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (伊勢工業高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業の人材育成を軸に、一人ひとりが望む進路の完全保障を実現する工業高校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣を身につけ、社会常識のある明るく素直な生徒(ひとづくり) ○ 産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒(ものづくり) ○ 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す学校像の達成に向けて、教職員が教育活動の実践や改善のために、相互に共同し切磋琢磨する関係性(同僚性)を保ちつつ、失敗を恐れずに前向きにチャレンジし続ける教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 卒業後の進路希望は、就職が約8割、進学が約2割である。また、資格の取得や活発な部活動に期待している。</p> <p><保護者> 保護者の多くは、子どもの地元企業への就職を希望している。</p> <p><地域> 元気で素直な生徒の育成に期待をしており、特に地元企業からの期待が大きい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> 日常の子どもの様子を知らせてほしい。</p> <p><中学校> 学校の様子、卒業生の近況報告、入試状況を知らせてほしい。</p> <p><地域社会> 地域の活性化のため、地域行事や防災面で施設や生徒の協力をお願いしたい。</p>	<p><家庭> 本校教育方針への理解と協力をお願いしたい。</p> <p><中学校> 継続的な指導が必要な個々の生徒の情報共有をお願いしたい。</p> <p><地域社会> 本校の教育活動を理解し、積極的に協力して欲しい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の児童生徒数が減少しており、特に伊勢志摩地域では顕著であると感じる。そこで、様々な特性の生徒が入学する中、個々の生徒の知識・技能を伸ばせるような指導を継続してほしい。 ・ 伊勢工業高校の地域での活躍とその躍進を感じる1年であった。「高校生工務店」、建築科の取組が大きく注目されているが、全体の取組みが一部の生徒に集中するのではなく、全校生徒に広げるとともに、機械科、電気科も特徴を公表してほしい。 ・ スマートフォンやタブレットに慣れた児童が進学してくる中で、立体的に物事をとらえづらい生徒が増えているように感じる。次の世代を担える、実際のモノを触った「ひとづくり」を育成してほしい。 ・ 高校生工務店で「新しい工業高校」を示すことができたと思う。地域にあるベンチャー企業からの支援を受けるなど、さらに新しい形の工業高校を模索してほしい。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<p><現状>在学中に様々な資格取得を目指し、卒業後は地元企業へ就職する生徒が多いことから、生徒・保護者・地域のニーズには合致している。</p> <p><課題>企業が求める人材は、現在より一段高いところ（異世代間でも適応できるコミュニケーション能力、基礎的な学力の確実な習得、より高度な資格取得等）にあり、そのニーズに応えていく必要がある。また、生徒の安全と学びの継続を両立させるため、ICT教育の推進をすすめるとともに、変化の激しい社会や技術の急速な進歩に対応するために「課題解決力」や「学びに向かう力の育成」が必要である。</p>
	学校運営等	<p><現状>本校の教育活動を理解してもらうため、小学校への出前授業や地域のイベント等に積極的に参加しており、地域からは一定の評価をいただいている。地域も非常に協力的である。</p> <p><課題>活発な部活動に加え、地域からの期待や要望に応えるための土日のイベント参加も多くなり、教職員も生徒たちも疲れてきている。参加するイベントの精選・工夫や日常業務の改善による総勤務時間の縮減を積極的に行い、教職員や生徒たちの過重な負担を減らしていく必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「ものづくり」が好きで、学校での学習や地域での体験を基に自身が成長できる、生徒から望まれる学校づくりを行う。その「ものづくり」をとおして生徒が主体的に新しい資質・能力を学ぶ成長できる場を設ける。 ・分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図る。 ・基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直で、自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒を育成する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深める。 ・第1希望の進路の獲得を目指し、基礎学力向上に向けた取り組みの充実と表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組む。 ・教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努める。 ・新型コロナウイルス感染症防止対策で学校行事を体験していない生徒が大半を占める中で、脱感染症対策の学校運営に戻すことを考えていく。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科指導	<p>分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して学びに向かう力の育成とともに、基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図ります。「高志」ある生徒が、卒業時に取得すべき資格等を明確にして、取得するための体制づくりに取り組み、成果を上げます。</p> <p>(1)1年生から計画的、段階的に取得技術の高度化を図り、実用に即した資格取得に重点をおいた教育実践に努めます。</p> <p>(2)実習・課題研究や製図の取組の中で、技術技能の向上並びに「ものづくり」を通じた地域連携による課題解決力や表現能力に秀でた生徒の育成を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)ものづくり大会への参加・ものづくり東海大会への出場</p>	<p>機械科</p> <p>(ア)</p> <p>第19回三重県校高等学校ロボコン競技大会 準優勝</p> <p>第9回全国高等学校コマ大戦 ベスト32</p> <p>電気科</p> <p>(ア)ものづくりコンテスト電気工部門 三重県大会優勝</p> <p>東海大会出場</p> <p>(イ)技能検定3級電子機器組立 7名受験7名合格</p> <p>技能検定第3級電気機器組立 6人受験5人合格</p> <p>建築科</p>	

	<p>(イ) 技能検定3級程度の技能練習、補習授業等の実施 (ウ) 建築設計競技会への参加 (エ) 高校生工務店等による各種地域機関との連携</p> <p>【成果指標】 * 資格取得【別表】参照</p> <p>(3) 図書館の取組として、生徒の「生きる力」を育むため、読書案内・学習活動につながる教育支援の充実に努めます。</p> <p>【活動指標】 授業やHR活動等での図書館利用の推進 高校生工務店等の学校全体に関わる取組みへの支援 三重県学校図書館協議会および南勢地区高等学校図書館連絡協議会との連携</p> <p>【成果指標】 生徒1人当たり貸出冊数5冊以上 館内のリニューアル 高校生ビブリアバトルへの参加</p>	<p>(イ) 技能検定3級建築大工 6名受験5名合格 全科合計29名</p> <p>(ウ) 建築設計競技参加実績 (公社)日本建築士会連合会主催 2023年第14回 高校生の「建築甲子園」 教育・事業本委員長特別賞(全国4位相当) 他、全国1位相当5作品 全国2位相当1作品 全国3位相当2作品 全国入賞1作品 延べ入賞生徒11名</p> <p>(エ) 高校生工務店実績 G7 伊勢志摩交通大臣会合贈答用木箱の製作 地元商店 木製メニュー板の製作 木製紙芝居舞台の製作 市営大仏山公園ベンチデザイン</p> <p>(3) ・生徒一人当たり貸出冊数5冊以上 →2/19 現在、4.5 冊 ・館内のリニューアル →「本を読もう！読書活動推進事業」の取組としてコミュニケーションスペース(アイデアタワー・会議机やスツール、ホワイトボードを設置)をつくり、書架や机の配置を見直した。 ・高校生ビブリアバトルへの参加 →地域大会へバトラーとして2名出場。総合司会者として1名参加。 南勢地区高等学校図書館連絡協議会の事務局として地域大会を運営した。</p>	
<p>生徒指導</p>	<p>基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直な生徒を育成します。(ひとづくり)</p> <p>(1) 挨拶の励行や時間の尊重、身だしなみや礼儀作法に気を配り、ルールを遵守するなど、生活規範を身につけた生徒を育てます。</p> <p>【活動指標】 (ア) 全教員による登下校校門指導と校内巡視(毎日) (イ) 駅前・町内巡視の実施</p>	<p>・火水金に登校指導、校内巡視を実施した。 ・駅前や市内の巡視、校外活動時は生徒指導部で巡視した。 ・身だしなみ講座は1年生対象にオリエンテーションを利用して実施した。 ・入室許可証を取りに来る生徒は、</p>	

	<p>(ウ) 5分前精神の徹底(時間を守る・遅刻しない)</p> <p>(エ) 授業に集中させるために入室許可証の発行実施</p> <p>(オ) 頭髪服装指導(通年)・身だしなみ講座(4月)の実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>(ア) 挨拶の励行100%</p> <p>(イ) 遅刻の回数 昨年度比25%減</p> <p>(2)日々の授業や学校行事等、教育実践全般を通じて継続的にモラル教育を実践します。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(ア) 欠席日数の減少</p> <p>(イ) 校則違反等による特別指導件数の減少(10件以下に減)</p> <p>(3)工業高校生としての連帯感を高め、いじめのない良好な人間関係の構築に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア) 新入生研修で「ソーシャルメディアの利用について」の講話を実施(4月)</p> <p>(イ) 各科や各学年を通じた指導</p> <p>(ウ) 部活動での人間関係の育成</p> <p>(エ) 生徒個別面談(年間2回)や学校生活等に関するアンケート(各学期)の実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>いじめの未然防止、早期の把握・解消</p> <p>いじめの解消率100%</p> <p>(4)学校の様子を積極的に保護者に発信し、意思疎通を図り、生徒指導の意義や目的への理解を高めます。(保護者や学校関係者以外の意見、HR活動や個別懇談の状況把握等の実施)</p> <p>【活動指標】 (ア) 保護者会やPTA諸会合での説明</p> <p>(イ) 学年懇談会での話し合い</p> <p>(ウ) 生徒個別面談を年2回実施、学校生活等に関するアンケートを各学期に実施</p> <p>【成果指標】 保護者が学校の様子をよく理解している。 保護者が学校に対し気軽に意見を言える。</p>	<p>昨年の基準から変更したため増減不明(数的に7.9%減)</p> <p>【頭髪服装指導について】</p> <p>1)2ヶ月に1度実施した。</p> <p>2)頭髪服装指導の延べ人数は R4:216→R5:108 (本年度2ヶ月に1回としたため、延べ人数とする。)</p> <p>【遅刻・入室】について (4月から12月)</p> <p>・遅刻 R4:448→R5:450(増減なし)</p> <p>・入室 R4:538→R5:504(7.91%減)</p> <p>コロナは落ち着いたが、体調不良(インフルエンザを含む)を訴える生徒は増加している。</p> <p>・6, 11, 2月を遅刻防止月間とし、遅刻回数に応じた指導をしている。</p> <p>【特別指導について】</p> <p>・特別指導22件であった。軽率な行動による指導が増えており、今後継続した指導が必要であり、集会等で生徒の規範意識を高めることが急務である。</p> <p>【いじめについて】</p> <p>・いじめ防止強化月間では、宇治山田駅での啓発活動を実施した。また、校内の活動として国語科とタイアップし「いじめ標語」を募集し優秀者を文化祭で表彰した。</p> <p>・生徒個別面談、学校生活アンケートを実施し生徒の状況を把握した。</p> <p>・通年いつでも連絡できる学校生活アンケートを実施。いつでも報告できるようにQRコードの載ったポスターを相談しやすいトイレ等に設置。</p> <p>・毎月いじめ防止委員会を開催し、担任から状況を聞き情報共有した。</p> <p>・いじめ解消率100%になり、件数も半減した。</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>・PTA 役員会などで校則改定について報告をした。</p>	
<p>進路指導</p>	<p>進路希望の実現に不可欠な基礎学力の向上、また自らの思いや考えを伝える表現力、コミュニケーション能力の育成に努める。</p> <p>(1)キャリア教育の推進により、保護者との連携を保ち生徒の主体的意志に基づいた進路希望の実現を目指す。</p> <p>(2)校内において科や担任団など関係分掌との連携を円滑にし、キャリア教育を効果的に進めることで、成果を生徒に提供する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)諸行事を適切に実施し、進路意識の啓発や有益な情報提供を進める。</p> <p>・インターンシップ／在卒懇談会／企業訪問</p> <p>(イ)スタディサプリの活用により、学習習慣を持続させ基礎学力の定着を目指す。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(ア)求人企業数・求人数の大幅減の抑止</p> <p>(イ)卒業前の意識調査における高い満足度</p>	<p>進路指導部 結果 ()内は前年度比</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)諸活動</p> <p>・インターンシップ 受入企業15社(+1) 参加者35名(+9)</p> <p>・在卒懇談会 参加企業18社(+4) 大学2校(+1)</p> <p>・企業訪問 49社(+19)を訪問</p> <p>(イ)スタディサプリア</p> <p>・基礎的学習の習慣を定着させるため、「学校全体での指導」という視点を確認しつつ、その実現のため担任団や他分掌との連携をいっそう密にする。</p> <p>・到達度テストにおいて、成績下位層の生徒が減少した。</p> <p>例 3年数学:正解率25%以下の生徒13%(-10)</p> <p>【成果指標】</p> <p>(ア)売手市場化が続き、前年度を大きく上回る求人数となった。</p> <p>求人状況</p> <p>県内 396社(+2) 698名(+13) 県内全域 35社(-13) 63名(-17) 北勢・伊賀 90社(+10) 147名(+6) 中勢 146社(+7) 252名(+12) 南勢 125社(-2) 236名(+12) 県外 211社(+31) 391名(+109) 合計 607社(+33) 1089名(+122) 求人倍率 9.99倍(+1.8)</p> <p>(イ)【就職】一次 合格者99 不合格者9 合格率92% (-2.9%) 学校斡旋の就職内定率は100%減少 指名求人希望 5(-4)社5(-5)名 「非工業的職種」1(-7)社1(-9)名</p> <p>【進学】合格41(+13) 不合格5(-1) (合格率89%) 不合格 四年制大学:「放射線技術科」「総合政策学部」「経営学</p>	

		部」 【公務員】 合格者1(自衛隊) 不合格者2(警察・消防)	
--	--	---------------------------------------	--

改善課題

新型コロナウイルス感染症防止対策が終了し、今までの学校生活の大切さを感じる中、感染対策の中で精査した学校運営の視点で取り組むことができた。企業に求められる生活習慣や社会人として求められる能力は、一定の評価をいただいていることから、時代の変化に応じて改善しつつも、地域人材の担い手になるよう取組をすすめていく。

求人数をみると好調な売り手市場になっているが、基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着が重視されることから、今後も学校全体で定着をすすめていく。今年度の課題を確認し、努めていく。

【別表】

標記：目標／受験者数／結果

資格取得 合格者数の 目標値	資格、検定	機械科	電気科	建築科
	危険物乙種4類	40人／118人／15人		
	ガス溶接技能講習	76人／72人／71人		
	基礎製図検定	50人／71人／36人		
	機械製図検定	50人／78人／37人		
	技能検定（機械保全）3級	5人／6人／5人		
	技能検定（機械検査）3級	5人／10人／9人		
	小規模ボイラー講習	80人／34人／34人		
	電気工事士2種		40人／48人／44人	
	電気工事士1種		10人／13人／5人	
	電気主任技術者3種		1人／3人／0人	
	第二級陸上特殊無線技士		10人／15人／10人	
	第二級海上特殊無線技士		10人／11人／7人	
	技能検定（シーケンス制御）3級		10人／6人／5人	
	技能検定（電子機器組立て）3級		13人／7人／7人	
	福祉住環境コーディネータ3級			10人／14人／2人
	2級建築施工管理技術検定試験			10人／20人／6人
	カラーコーディネータ3級			10人／39人／25人
	建築CAD検定4級			35人／38人／38人
	建築CAD検定3級			35人／39人／31人
建設業経理事務士4級			20人／35人／32人	
技能検定（建築大工）3級			5人／6人／5人	
レタリング検定3、4級			35人／39人／39人	

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	(1) 教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上	(1) ・定時退校日、部活動休養日、放課	

	<p>に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退校日を月1日実施 ・ 部活動休養日を週1回設定 ・ 放課後の会議の時間 60 分以内 <p>【成果指標】(()内は令和4年度の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上限時間月45時間超の延べ人数 0 人 (100 人) ・ 上限時間年360時間超の延べ人数0人 (15人)・時間外労働を月 2 時間削減(2.5 時間/月) ・ 定時退校できなかった教職員数延べ 45 人以内(22 人) ・ 予定通り休養日を設定した部活動の割合 100% (88%) ・ 60 分以内に終了した放課後の会議の割合 100% (95%) ・ 休暇取得を年 0.5 日増加(17.4 日/年) <p>(2) 体罰や不適切な指導のない状態を守り続け、生徒がより安心、安全に過ごせる学校を目指します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修を年 2 回実施 ・ミニコンプライアンス研修を月 1 回実施 <p>【成果指標】</p> <p>職員一人ひとりのコンプライアンス意識が高まっている。</p> <p>(3) ICT 教材を活用した授業研究等を通じて、各教科の ICT 教育のスキルアップを目指します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 研修を年2回実施 <p>【成果指標】</p> <p>各教科における ICT 教材を活用した授業の実施と、ICT 教材を活用した授業改善を目指します。</p>	<p>後の会議時間の設定を活動指標通りとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月45時間超 83人(2月末) ・年 360 時間超16人(2月末) ・時間外労働 月 19.1h(2月末) ・定時退校できなかった職員は、23 人(12月末)。 ・休養日を設定した部活動は、89%。 ・60 分以内に終了した放課後の会議について、95%(職員会議) ・休暇取得は、学校閉校日を設定して取得率増加に繋げた。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校信頼向上委員会を毎月実施するとともに、全職員生徒にコンプライアンス研修を4回(不適切発言2回、個人情報漏洩、セクハラ)行った。ポータルの共有記事や新聞を活用した不祥事の情報共有を図り、職員のコンプライアンス意識を高めた。 ・現在は、多くの授業でICT機器を活用したものとなっている <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAサポーターが来校する際に個別に研修を実施し、授業・校務改善を進めた(7回) <p>GiGa サポーターによる研修会を行った(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科で次年度から始まった観点別評価のマネジメント活動を行っている。 ・各教科で継続してICT活用指導計画の改善を図った。(9教科・科目)。
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>地域との連携</p>	<p>南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深めます。</p> <p>(1)地域の自治体、企業や幼保小中学校との連携を強化し学校の情報発信力の強化を図ります。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)地元商店等のオリジナルグッズの開発</p> <p>(イ) 小学校への出前授業の実施</p> <p>(ウ) 工業高校生フェアの開催準備</p> <p>(エ) 「ものづくりの小径」の整備</p> <p>(オ) 報道機関への資料提供やSNS等による積極的な情報提供</p> <p>【成果指標】</p> <p>地域関係者との連携強化が進んでいる。</p> <p>(2)地元企業との連携強化に向けて、双方向からの情報発信・相互理解を深めるための行事を実施します。</p> <p>【活動指標】 地元企業の高校内企業説明会の実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>企業、生徒双方の満足度90%以上(満足度アンケートより)</p>	<p>(1)</p> <p>(ア)</p> <p>○度会町と連携 保育所クラスプレート製作・設置 ・度会町立中之郷保育所(進行中)</p> <p>○伊勢市と連携 大仏山公園児童園ベンチ作成</p> <p>○教材制作 度会特別支援学校 教材制作</p> <p>○伊勢志摩地域と連携 ・伊勢警察署と連携して啓発活動等実施</p> <p>5/12 玉城町立玉城中学校 7/11 五十鈴川神宮幼稚園 9/27 玉城町立外城田小学校 2/7 玉城町立田丸保育所</p> <p>○雇用経済部からの依頼でG7三重・伊勢志摩交通大臣贈呈用日本酒化粧箱作成</p> <p>○R4年度の引き続き、明野高校、みよしやと連携して吟醸酒「明野さくもつ」の化粧木箱製作</p> <p>○山中豆腐店のメニュー等製作</p> <p>○マルエス田中商店「お品書き」 取組内容をみえ探究フォーラムで発表</p> <p>○小俣まちづくり協議会 紙芝居木枠</p> <p>(イ)</p> <p>○伊勢工業高校小学生講座 8月10日(木)「伊工にいこう！」 479人参加</p> <p>○志摩市こうさくフェスタ 12/27:志摩高校、水産高校連携 ・オルゴールづくり 午前2回・午後3回 各5組(1組2人) 参加者 計50人</p> <p>・トランシーバで遊ぼう 午前1回・午後1回 各4組(1組3人) 参加者 計24人</p> <p>○三重県総合博物館 展示イベント 1/14:建築士になろう 3回 参加者30組60人</p>	
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

		<p>(12組、10組、8組) 1/20:こまをつくろう 参加者 81組 162人 ○神宮五十鈴川幼稚園「木工遊び」 1/23 (ウ) ○工業高校生フェア(8/26) 電気科 オルゴールをつくろう 午前2回・午後3回 各5組 参加者 計50人 ○産業教育フェア 建築科 ホイッスルをつくろう ○ARで発見! どうぶつの城 (11/25～12/3)こどもの城 サイバーウェイブジャパンと菱友システムズと連携</p> <p>(オ) ○展示 ・鳥羽市立海の博物館「故郷の海」展示(4/9 から 7/4 まで) ・三重県総合博物館 「ものづくり」からみる「三重のくらし」 1/13 から 2/4 まで 観覧者数 7, 022人 ○ラジオ放送 東海ラジオ 宗一・麻紀の HUMAN PRESS 10/2、10/9、10/16、10/23、10/30 5回 ○新聞掲載確認件数28件(2月末) ○公式Instagram ・全投稿198件(令和4年度93件)、 フォロワー707(令和4年度:411) ○ものづくりの小径は、整備を進めた。</p> <p>(2) ○いじめ啓発活動(宇治山田駅) ・4/20:FC ISE－SHIMAと連携 ・11/9:FC ISE－SHIMA、明治安田生命と連携 特殊詐欺被害防止啓発活動 ○12/15:伊勢警察署と連携 ○伊勢市高校生議会</p>	
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

		<p>8/10 に生徒会が参加</p> <p>○子どもの椅子プロジェクトファイナルイベント(11/23) (こどもの城)</p> <p>○展示</p> <p>・鳥羽市立海の博物館「故郷の海」展示(4/9 から7/4 まで)</p> <p>・三重県総合博物館 「ものづくり」からみる「三重のくらし」 1/13 から2/4 まで 観覧者数 7,022人</p> <p>○1年生、2年生を対象とした企業説明会を実施した。</p> <p>○地域とかかわった連携の満足度は 相手先 100% 生徒 100%であった。</p>	
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

改善課題

コロナウィルス感染症対応も終了し、感染拡大防止対策下で今までの学校運営方法の強みを再確認して学校活動に取り組むことができた。

各科で取り組んでいる資格取得に向けた体制作り、学習成果の観点別評価方法、校則の見直し、基礎学力定着の取組等を各部署で改善活動をするなど各部署において運営方法の改善に取り組んでいる。改善活動で、勤務時間短縮を図れるよう、その観点で見出す活動をすすめる必要がある。

高校生工務店をとおして、地域の困りごとの解決や地域の人材育成に大きくかかわることができた。

令和6年度入学選抜においては、南勢地域の入学定員が4クラス減少し、本校も希望者が大きく定員を下回った。中学校の聞き取りや中学生の要望等を聞き取り、必要とされるべき情報を発信していきたい。特に、進学希望が一定数あり、進路割合でも増加していることから、継続して進学対策に取り組みたい。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たち幅広く活動していることを知った。 ・令和6年度入試希望者数の減少は、(周囲の)中学生とその保護者が、工業高校は、普通科の学習内容が乏しく、大学に進学できない等と誤解しているように感じるため、正しく情報を伝えたほうがいい。 ・昨年度の反省報告時、今年度の計画報告時に評価委員から指摘のあった「国際性の取組」について取り組むことが望まれる。
----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、きめ細やかな教育活動をとおして、基本的な生活習慣を身につけ社会常識のある明るく素直な生徒(ひとづくり)、産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒(ものづくり)、自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒を育成する。
---------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none">・育みたい生徒像を育成するために、南勢地域全体に求められる「ものづくり」(探究的な学習)に参加し、不易な「ものづくり」の資質・能力を育成するとともに、生徒が主体的に新しい資質・能力を学ぶ機会を設ける。・伊勢から地域の次の「ものづくり」担う人材をグローバルな視点で育むため、工業高校ならではの「国際性」を育める取組を検討する。
学校運営についての改善策	<p>教職員の働き方改革は、引き続き啓発をとおして、業務改善に努める。</p> <p>教職員のコンプライアンス意識や、人権感覚を高めるため、職員会議、研修等に取り組み、継続的に意識を深める。</p>